

モデルナ (MRNA)

【セクター】 バイオテクノロジー

信買

【市場】 NASDAQ

信売

【企業概要】

2010年に設立され、マサチューセッツ州に本社があります。メッセンジャーRNA（mRNA：特定のたんぱく質を作るための指示を伝える）ベースのワクチン及び治療薬を開発しています。地域別売上高比率（2022年12月期）は米国27%、欧州35%、その他38%です。製薬大手メルク等と戦略提携しています。2021年7月にS&P500指数採用銘柄になりました。2023年1月にオリシロジェノミクス（プラスミドDNAの無細胞合成開発等を行う。所在地は東京）を買収すると発表しました。

【業績】（単位：売上高、純利益は百万ドル、EPS、1株配当、BPSはドル、ROE、自己資本比率は%、純利益、EPSは調整後ベース）

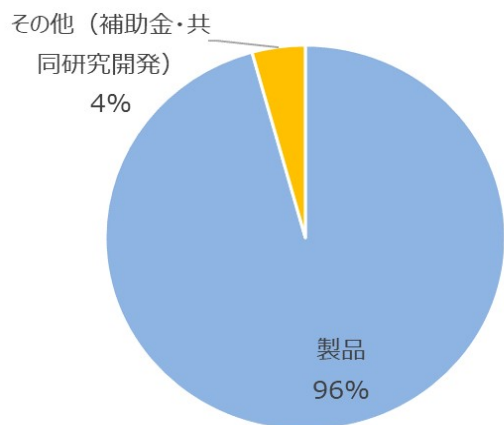
決算期	売上高	純利益	EPS	1株配当	BPS	ROE	自己資本比率
21.12期	18,471	12,202	28.29	0.00	35.1	146.1	57.3
22.12期	19,263	8,362	20.12	0.00	49.7	50.3	74.0
23.12期（予）	7,681	-217	-0.21	0.00	45.3	-3.5	-

※EPS：1株当たり利益、BPS：1株当たり純資産、ROE：株主資本利益率

（出所）BloombergのデータよりSBI証券作成

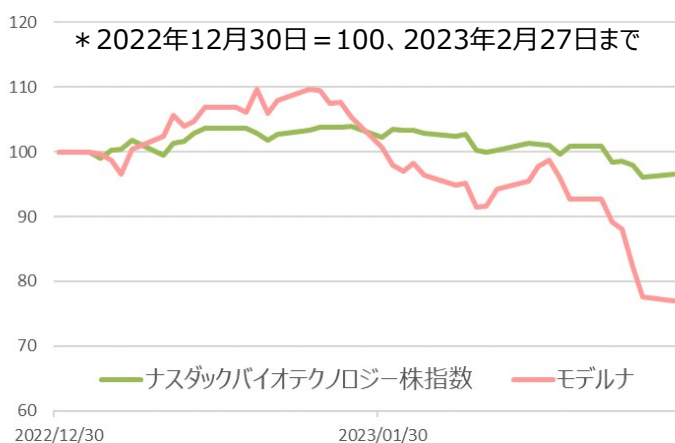
【主要指標】

売上高構成比率（%、2022年12月期）



（出所）会社資料よりSBI証券作成

ナスダックバイオテクノロジー株指数とモデルナの年初来パフォーマンス



（出所）BloombergのデータよりSBI証券作成

【会社の見方】

mRNAは医療に革命をもたらす可能性があると言われており、同社は10年以上にわたりmRNA医薬品の研究開発を行っています。mRNA医薬品は短期間に製造することが可能で、実際、同社の新型コロナウイルスワクチンは早期に開発・承認されました。一方、株価は終値ベースで見るとピーク比でおよそ7割下落しています。新型コロナウイルスワクチン以外のワクチン・治療薬を市場に投入できるかが株価回復へのポイントになると思われます。開発プログラムとしては2023年2月時点で48あり、インフルエンザワクチンやサイトメガロウイルスワクチン、RSウイルス（RSV）ワクチン、ジカワクチン、HIVワクチン等があります。RSVワクチンについては高齢者対象の第3相臨床試験で主要有効性評価項目を達成し、2023年上半期に当局に承認申請を行う計画です。

【見通し・注目点】

2022年10-12月期は売上高が前年比29%減の51億ドルで、市場予想は上回りました。減収は新型コロナウイルスワクチンの販売減少が主な要因です。研究開発費はRSVや季節性インフルエンザ等の臨床試験関連費用がかさみ同87%増、販管費はマーケティング費用等で同87%増でした。営業利益は同71%減で、EPSは市場予想を下回りました。2023年の研究開発費は45億ドルと前年（33億ドル）から拡大見通しです。4月11日に投資家・アナリスト会議を実施予定です。

本レポートに関するご注意事項

- ・本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。
- ・本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。本資料の内容は作成時点のものであり、信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて作成したのですが、正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に記載の情報、意見等は予告なく変更される可能性があります。

手数料及びリスク情報等

- ・SBI証券で取り扱っている商品等へのご投資には、各商品毎に所定の手数料や必要経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等は価格の変動等により損失が生じるおそれがあります(信用取引、先物・オプション取引、外国為替保証金取引、取引所CFD(くりっく株365)では差し入れた保証金・証拠金(元本)を上回る損失が生じるおそれがあります)。各商品等への投資に際してご負担いただく手数料等及びリスクは商品毎に異なりますので、詳細につきましては、SBI証券WEBサイトの当該商品等のページ、金融商品取引法に係る表示又は契約締結前交付書面等をご確認ください。